

ジュゼッペ・ジッボーニ
& ルエン・リー
2つのヴァイオリンとピアノ

Giuseppe Gibboni & Lun Li
Two Violins with Piano

ピアノ - 實川 風
Piano - Kaoru Jitsukawa

2026年
1月14日(水) 19:00

サントリーホール ブルーローズ

主催 笹川音楽財団

(旧称：日本音楽財団)



プログラム

ディートリヒ / シューマン / ブラームス : F.A.E. ソナタ

Dietrich/ Schumann/ Brahms: F-A-E Sonata

- I. Allegro
- II. Intermezzo
- III. Scherzo
- IV. Finale

ジュゼッペ・ジッポーニ (ヴァイオリン)
實川 風 (ピアノ)

Giuseppe Gibboni (violin)
Kaoru Jitsukawa (piano)

ミヨー : 2つのヴァイオリンとピアノのためのソナタ 作品15

Milhaud: Sonata for 2 Violins and Piano, Op.15

- I. Animé
- II. Modéré
- III. Très vif

ルエン・リー (第1ヴァイオリン)
ジュゼッペ・ジッポーニ (第2ヴァイオリン)
實川 風 (ピアノ)

Lun Li (1st violin)
Giuseppe Gibboni (2nd violin)
Kaoru Jitsukawa (piano)

*** 休憩 Intermission ***

フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調

Franck: Violin Sonata in A Major

- I. Allegretto ben moderato
- II. Allegro
- III. Ben moderato: Recitativo-Fantasia
- IV. Allegretto poco mosso

ルエン・リー (ヴァイオリン)

實川 風 (ピアノ)

Lun Li (violin)

Kaoru Jitsukawa (piano)

🎵 曲目解説 🎵

ディートリヒ / シューマン / ブラームス : F.A.E. ソナタ

4つの楽章からなるこのヴァイオリン・ソナタは、1853年10月、3人の作曲家の共作として生まれた。発案者はドイツ・ロマン派の代表的な作曲家ロベルト・シューマン(1810～1856)。当時43歳だったシューマンの呼びかけに応えたのは、彼を恩師として慕った20歳のヨハネス・ブラームス(1833～1897)、そしてシューマンの作曲の弟子でありブラームスの友人でもあった24歳のアルベルト・ディートリヒ(1829～1908)である。3人は共通の友人である22歳のヴァイオリンの名手、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)への贈り物としてこのソナタを作曲した。

タイトルの「F.A.E.」とは、ヨアヒムの座右の銘「自由に、しかし孤独に (Frei aber einsam)」の頭文字を取ったもの。この3つの文字が示す音(ファ-ラ-ミ)が、旋律や和声の中に暗号のように織り込まれている。第1楽章をディートリヒ、第2楽章(間奏曲)と第4楽章(終楽章)をシューマン、第3楽章(スケルツォ)をブラームスが担当した。初演は1853年10月28日、シューマン邸にて行われ、クララ・シューマンのピアノ、ヨアヒムのヴァイオリンで披露された。作曲家たちの生前には出版されず、ブラームスの書いた第3楽章のみ1906年に出版され、全曲版は1935年に刊行された。

ミヨー : 2つのヴァイオリンとピアノのためのソナタ 作品15

ダリウス・ミヨー(1892～1974)は、フランスの作曲家グループ「6人組」の1人として知られる。彼らは、後期ロマン派の大編成で重厚な音楽に対し、小編成で明快な新古典主義の音楽を志向した。本作は、ミヨーがパリ音楽院在学中の1914年に作曲した初期の室内楽作品であるが、その明るく透明感のある響きの中に、20世紀フランス音楽の新しい感覚がすでに輝いている。また、彼が生涯にわたって探求した多調や、複数の声部が生き生きと絡み合う対位法がすでに見られ、この意欲的な作品にはパリ音楽院の作曲賞(Lapaulle 賞)が授与された。

曲は3楽章から成り、快活なエネルギーに満ちた「Animé(活発に)」、繊細な響きのテクスチュアが織りなされる「Modéré(中庸の速さで)」、躍動的なリズム語法の見られる「Très vif(非常に速く)」で構成される。全体を通して、フランス新古典主義的な明晰さと生命力に満ちている。

フランク：ヴァイオリン・ソナタ 長調

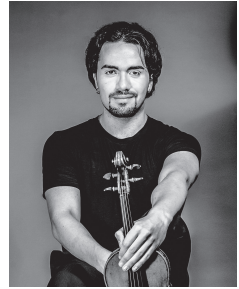
ベルギーに生まれ、のちにフランスに帰化したセザール・フランク(1822～1890)は、パリ音楽院のオルガン教授として知られ、晩年には作曲家としての評価も高めた人物である。このソナタは1886年、64歳のフランクが、同郷の名ヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザイ(1858～1931)の結婚祝いとして作曲したものである。同年9月26日の結婚式当日に、イザイ自身が初演した。

本作は、フランクが得意とした「循環形式」で書かれている。主要なモチーフが全4楽章を通して形を変えながら再現され、ソナタ全体に統一感を与えている。第1楽章は問いかけるようなピアノの和音で開始し、ヴァイオリンが穏やかで夢見るような主題を提示する。第2楽章は劇的なスケルツォ楽章で、情熱的な展開を見せる。第3楽章は哀愁を帯びた「レチタティーヴォ - ファンタジア」。語るように幻想的な音楽が紡がれていく。第4楽章は明るく流麗な主題によるロンド形式で、ヴァイオリンとピアノが主題をカノン風に掛け合いながら、喜びに満ちたフィナーレで全曲を締めくくる。

解説：飯田 有抄(クラシック音楽ファシリテーター)

ジュゼッペ・ジッボーニ

ストラディヴァリウス 1722 年製ヴァイオリン
「ジュピター」



©Andrej Grlic

2021年にイタリアのジェノヴァで開催された第56回パガニーニ国際コンクールで優勝。さらに聴衆賞、パガニーニのカプリース及び協奏曲の最も優れた解釈に授与される2つの特別賞を受賞して国際的な注目を集めるとともにイタリア人として24年ぶりに優勝を果たした。

14歳でクレモナのシュタウファー・アカデミーに入学してサルヴァトーレ・アッカルドに師事。その後、シエナのキジアーナ音楽院で研鑽を積む。さらに、ピエツラのペロージ音楽院でパヴェル・ベルマンに、ザルツブルク・モーツァルテウム大学でピエール・アモイヤルに師事した。

2021年パガニーニ国際コンクールの優勝をきっかけに、国際舞台でのキャリアを急速に切り拓き、これまでにロレンツォ・ヴィオッティ指揮サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ヤデル・ピニャミーニ指揮デトロイト交響楽団、ズービン・メータ指揮フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団など、世界有数のオーケストラと共演している。

今シーズンは、リッカルド・ムーティ指揮でラヴェンナ芸術祭のオープニングコンサートにデビュー、また、アトランタ交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団のドバイ公演、北京交響楽団、ソウル・アーツ・センターへのデビューを果たした。ほかにもイタリアのトリエステでブゾーニ「ヴァイオリン協奏曲」を作曲家の没後100周年記念として演奏した他、ドナート・レンツェッティ指揮でジェノヴァのカルロ・フェリーチェ劇場管弦楽団とのアメリカツアーでパガニーニ「ヴァイオリン協奏曲第1番」を演奏。レンツェッティとはチャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」でミラノのイ・ポメリッジ・ムジカーリ管弦楽団とも共演した。

<https://giuseppe-gibboni.com/>

Giuseppe Gibboni

Stradivarius 1722 Violin “Jupiter”

Giuseppe Gibboni captured international attention in 2021 by winning First Prize at the 56th “Premio Paganini” International Violin Competition in Genoa — and by also winning the audience award and two special prizes for the best interpretations of Paganini’s Caprices and Concerto. He was the first Italian violinist in 24 years to win this prestigious competition.

At the age of 14, he was admitted to the Stauffer Academy in Cremona, where he studied with Salvatore Accardo, and later continued his training at the Chigiana Academy in Siena, where he received the Diploma of Honor. He also completed advanced studies at the Perosi Academy in Biella with Pavel Berman and at the Mozarteum University in Salzburg with Pierre Amoyal.

His victory at the Paganini Competition launched a career that rapidly took on an international dimension. He has collaborated with some of the world’s most prestigious orchestras, including the Orchestra of the Accademia Nazionale di Santa Cecilia conducted by Lorenzo Viotti, the Detroit Symphony Orchestra with Jader Bignamini, and the Maggio Musicale Fiorentino Orchestra with Zubin Mehta.

In the current season, he made his debut under the baton of Maestro Riccardo Muti at the opening concert of the Ravenna Festival. Other major engagements include debuts with the Atlanta Symphony Orchestra, the Filarmonica della Scala under Michele Mariotti, the Tokyo Philharmonic in Dubai, the Beijing Symphony Orchestra, and the Seoul Arts Center. He performed Busoni’s Violin Concerto in Trieste in celebration of the centenary of the composer’s death, and toured the United States with the Teatro Carlo Felice of Genoa, performing Paganini’s Violin Concerto No. 1 under the direction of Donato Renzetti, with whom he also performed Tchaikovsky’s Violin Concerto in Milan with the “Pomeriggi Musicali” Orchestra.

「ジュピター」について

About the “Jupiter”

ジュゼッペ・ジッポーニ
Giuseppe Gibboni

「ジュピター」は並外れて奥深く、洗練されたヴァイオリンで、この数年、その声をより親密に知るという恩恵にあずかってきました。その音色は温かさと輝きの絶妙なバランスを備え、力強く響き渡る一方、柔らかな色合いの中に高貴な繊細さをたたえています。この楽器はわずかなニュアンスにも敏感に呼応し、最も繊細なささやきから最も激しい情熱の高まりまで、幅広い表現を可能にします。

このヴァイオリンには深い歴史があり、私よりも前に優れた演奏家たちによって演奏され、それによって個性と響きが磨かれてきました。このような楽器を手にし、演奏することは喜びであると同時に、幾世代にもわたって築かれてきた演奏家の遺産を受け継いでいるという重責も感じています。

笹川音楽財団の寛大なご支援により、私はこのヴァイオリンの声を世界中の聴衆と分かち合うことが出来ます。このような素晴らしい楽器を託していただけることはこの上ない光栄であり、その響きがこれからも私自身に、そして聴く人全てにインスピレーションを与え続けてくれることを願っています。

The Jupiter Violin is an instrument of extraordinary depth and refinement, whose voice I have had the privilege of knowing more intimately over the past years. Its sound possesses a remarkable balance of warmth and brilliance, capable of projecting with great power while also retaining a noble subtlety in its softer colors. The instrument responds with great sensitivity to the slightest nuance, allowing for a wide palette of expression - from the most delicate whisper to the most passionate outburst.

This violin carries with it a profound history, having been played by exceptional artists before me, each of whom has added to its character and resonance. To hold and perform on such an instrument is not only a joy but also a profound responsibility, as I feel I am continuing a legacy that has been shaped over generations of remarkable musicians.

Thanks to the generous support of the Sasakawa Music Foundation, I am able to experience and share the voice of this violin with audiences worldwide. It is truly an honor to be entrusted with such a magnificent instrument, whose sound continues to inspire me and, I hope, all who listen.

Written in September 2025



ストラディヴァリウス 1722 年製ヴァイオリン「ジュピター」 Stradivarius 1722 Violin “Jupiter”

この楽器は、1800年頃にイギリスの収集家ジェームス・ゴディングによって「ジュピター」と名付けられたといわれている。歴代の所有者にはカンポセリーチェ公爵のほか W.E. ヒル & サンズ社、アマチュア奏者で医学の臨床教授のエフレイム・エングルマンが含まれる。大切に使用されてきたためオリジナルのニス全体に残っており、保存状態の優れたストラディヴァリウス作の好例である。

It is believed that the English collector James Goding named this violin "Jupiter" in the early 1800s. Throughout its history, it has been passed down through numerous well-known collectors including the Duke of Camposelice, W.E. Hill & Sons and an amateur violinist and Clinical Professor of Medicine, Dr. Ephraim Engleman. It was in the caring hands of those who appreciated its quality over many years. This helped it retain much of its original varnish and is therefore a well-preserved example of Stradivari's work.

ルエン・リー

ストラディヴァリウス 1735 年製ヴァイオリン
「サマズィユ」



©Kevin Condon

中国上海出身のヴァイオリニスト、ルエン・リーは、2021年にヤング・コンサート・アーティスト・スーザン・ワズワース国際オーディションで第1位、また、同年のリアン&モーリス・バーバッシュ J.S. バッハ・コンクールでも第1位を獲得した。

2024-25年シーズンのハイライトには、東京交響楽団、バンゴ交響楽団、スプリングス室内管弦楽団との協奏曲での共演が含まれる。また、リンカーン・センター室内楽協会とのアジアツアー、YCA とのアメリカツアーにも参加している。2025-26年シーズンには、ソリストとして大阪交響楽団および京都市交響楽団との共演のほか、リンカーン・センター室内楽協会のシーズン開幕公演への出演などを控えている。

これまでにカーネギー・ホール、92 Y、ベルリン・コンツェルトハウス、ドレスデン文化宮殿、ウィーン・コンツェルトハウスなど、主要な会場で演奏を行っている。

室内楽にも強い情熱を持つリーは、バード音楽祭、ベイ室内楽コンサート、ニューポート・クラシカル、マールボロ音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ミュージック・アット・メンロー、エンジェル・ファイアー音楽祭、ティペット・ライズ音楽祭に出演。2024年からはリンカーン・センター室内楽協会のパウワーズ・プログラムのメンバーとしてレジデンシーを務めている。

2020年カーティス音楽院を卒業、2022年ジュリアード音楽院で修士、2024年アーティスト・ディプロマ修了。主にアイダ・カヴァフィアン、キャサリン・チョー、ジョセフ・リンの各氏に師事した。

<https://www.lunliviolin.com/>

Lun Li

Stradivarius 1735 Violin “Samazeuilh”

A native of Shanghai, China, Lun Li has won First Prize at the 2021 Young Concert Artists Susan Wadsworth International Auditions, along with the Paul A. Fish Memorial Prize. He also took First Prize at the 2021 Lillian and Maurice Barbash J.S. Bach Competition.

Highlights of his 2024–25 season include concerto appearances with the Tokyo Symphony, Bangor Symphony, and the Chamber Orchestra of the Springs. He also tours Asia with the Chamber Music Society of Lincoln Center and the U.S. with Young Concert Artists. In the 2025–26 season, Lun will appear as a soloist with the Osaka Symphony and Kyoto Symphony Orchestras, as well as perform in the Chamber Music Society of Lincoln Center’s opening night concert.

Lun has performed in major venues including Carnegie Hall, Konzerthaus Berlin, Kulturpalast Dresden, and the Wiener Konzerthaus.

A passionate chamber musician, Lun has been featured at the Bard Music Festival, Bay Chamber Concerts, Newport Classical, Marlboro Music Festival, Verbier Festival, Music@Menlo, Music from Angel Fire, and Tippet Rise. In 2024, he began his residency as a member of the Chamber Music Society of Lincoln Center’s Bowers Program.

Lun holds degrees from the Curtis Institute of Music (BM ’20) and The Juilliard School (MM ’22, AD ’24). His principal mentors include Ida Kavafian, Catherine Cho, and Joseph Lin.

<https://www.lunliviolin.com/>

「サマズィユ」について

About the “Samazeuilh”

ルエン・リー
Lun Li

私が弾いているヴァイオリンは、笹川音楽財団から貸与していただいたストラディヴァリウス1735年製「サマズィユ」です。ストラディヴァリが晩年に製作した楽器の一つで、当時92歳でした。まるでその長年の探求と改良の全てが、この楽器の声に凝縮されているように感じられます。

その音色には、黄金の輝き、純粹さ、軽やかさといった、ストラディヴァリウス特有の光がありながら、どこか捉えどころのないものが潜んでいます。A線とD線の音は僅かなかすれがあり、まるで息をつまらせた声のようです。E線は自然の光のように輝き、光の中を翼を広げて飛行する鳥を思わせます。そして、私の一番好きなG線は、ごつごつとしており、少し粗野、まるで足元の土のような音色です。この大地のような感覚こそが、楽器に深みと誠実さを与えています。

このヴァイオリンで私が最も気に入っているのは、二度として同じ音を出さないということです。囁く日もあれば、燃えるように響く日もあります。温もりと距離感、優雅さと気概、あらゆる矛盾が、そこでは不思議と調和しています。演奏していると、今も秘密が息づく生きた歴史を抱えているように感じます。

The violin I play is the 1735 “Samazeuilh” Stradivarius, generously on loan from the Sasakawa Music Foundation. It’s one of the last instruments Stradivari ever made - he was ninety-two at the time - and it feels as though all his years of searching and refinement have been distilled into its voice.

The sound has that unmistakable Stradivarius glow - golden, pure, and weightless - yet there’s something more elusive in it too. The A and D strings carry a faint husk, almost like a voice caught mid-breath, while the E string shines with a kind of effortless radiance, a bird gliding through light. The G string, though, is my favorite - it’s rugged, a little rustic, like soil underfoot. That touch of earth gives the instrument its depth and honesty.

What I love most is that the violin never sounds the same twice. Some days it whispers, others it burns. It holds warmth and distance, grace and grit - a whole spectrum of contradictions that somehow make sense. Playing it feels like holding a living history, one that still hums with secrets.

Written in October 2025



ストラディヴァリウス 1735 製ヴァイオリン「サマズィユ」 Stradivarius 1735 Violin “Samazeuilh”

この楽器は、1836年に楽器商のルイジ・タリシオ（1796～1854）によってイタリアからフランスへ持ち込まれ、1909年にはサマズィユ家が所有していたことから「サマズィユ」と呼ばれている。1923年に楽器を所有することになったヴァイオリンの巨匠ミッシャ・エルマン（1891～1967）は「ストラディヴァリウスの中で最高の音色を持つ楽器の1つ」と1926年に手紙に記している。楽器の内側のラベルには製作時の年齢である91歳と書かれている。この楽器は、日本の篤志家からのご寄付と日本財団からの助成により、2017年8月に購入した。

In 1836, the instrument dealer Luigi Tarisio (1796-1854) brought this violin to France from Italy. By 1909, it had been acquired by the Samazeuilh family, hence the name "Samazeuilh". The virtuoso Mischa Elman (1891-1967), who came to possess the violin in 1923, wrote of it in a letter in 1926 considering it as "one of the best Stradivarius Instruments for tone quality". The inscription on its label records its maker's age of 91 years. In August 2017, Sasakawa Music Foundation acquired this violin with a substantial contribution from a benefactor in Japan and support from The Nippon Foundation.

實川 風 (ピアノ)

Kaoru Jitsukawa, piano



©Taira Tairadate

幼少期より主要国内コンクールでの優勝・入賞を経て、2015年ロン・ティボー国際コンクール第3位（フランス・1位なし）、最優秀リサイタル賞、最優秀新曲賞。2016年カラリョ国際ピアノコンクールで第1位を受賞。別府アールゲリッチ音楽祭、仙台クラシックフェスティバル、上海音楽祭、ソウル国際音楽祭、ノアン・ショパンナイト（フランス）などの国際音楽祭に客演。近年はバッハとベートーヴェンを演奏活動の中心に据えており、2023年バッハアルバムをキングレコードよりリリース、チェンバロ演奏にも取り組み、バッハ演奏の研究を続ける。

これまで東京交響楽団、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、東京シティーフィル、ニューシティフィル、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団、名古屋フィル、千葉交響楽団、群馬交響楽団などと共演。

東京藝術大学を首席で卒業、同大学大学院（修士課程）修了、さらにグラーツ芸術大学ポストグラデュエート修了。2024年4月より東京藝術大学器楽科ピアノ専任講師を務める。

Winner of major national competitions from a young age, Jitsukawa won 3rd Prize (with no 1st), Best Recital Prize and Best Contemporary Piece Prize at the 2015 Long-Thibaud International Competition, as well as 1st Prize at the 2016 Caraglio International Piano Competition. He has made guest appearances at the Beppu Argerich Music Festival, Sendai Classic Festival, Shanghai Music Festival, Seoul International Music Festival and Nohant Chopin Night (France) among others. The CD “Kaoru Jitsukawa plays Bach” was released from King Records in 2023, and he continues his studies on Bach playing the harpsichord.

He has performed with the Tokyo Symphony, Tokyo Philharmonic, Japan Philharmonic, New Japan Philharmonic, Tokyo City Philharmonic, New City Philharmonic, Osaka Symphony, Japan Century Symphony, Nagoya Philharmonic, and the Chiba and Gunma Symphony Orchestras.

He graduated from the Tokyo University of the Arts with top-class honors, subsequently completing the master's program. He has also completed postgraduate studies at the University of Music and Performing Arts Graz. He has been a faculty member of the Tokyo University of the Arts since April 2024.

笹川音楽財団

Sasakawa Music Foundation

笹川音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として弦楽器名器の貸与事業を実施しています。

保有する世界最高クラスの弦楽器21挺（ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェズ製ヴァイオリン2挺）を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、世界の文化遺産とも称されるこれらの名器を次世代へ継承するための保守・保全に努めています。また、楽器の貸与を受けた演奏家による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

笹川音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

The Sasakawa Music Foundation was established in 1974 with the objective of enhancing music culture in Japan. In 1994, the Foundation started the “Instrument Loan Project” through which the Foundation has strived to make international contributions by loaning top-quality string instruments acquired by the Foundation.

The Foundation currently owns 21 string instruments (15 Stradivarius violins, 1 viola, 3 cellos, and 2 Guarneri del Gesù violins), and as the custodian of these world-class cultural treasures, maintains them for future generations and loans them free of charge to promising young musicians and internationally active musicians regardless of their nationality. Additionally, the Foundation organizes concerts in Japan and abroad featuring musicians who have received instrument loans, providing audiences the opportunities to experience the timbre of these exceptional instruments.

The Foundation’s activities are made possible by the generous support of The Nippon Foundation.

日本音楽財団 は、2025年12月15日をもちまして笹川音楽財団に名称変更いたしました。

As of December 15, 2025, the Nippon Music Foundation has officially changed its name to the Sasakawa Music Foundation.

笹川音楽財団

Sasakawa Music Foundation

笹川音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として弦楽器名器の貸与事業を実施しています。

保有する世界最高クラスの弦楽器21挺（ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェズ製ヴァイオリン2挺）を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、世界の文化遺産とも称されるこれらの名器を次世代へ継承するための保守・保全に努めています。また、楽器の貸与を受けた演奏家による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

笹川音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

The Sasakawa Music Foundation was established in 1974 with the objective of enhancing music culture in Japan. In 1994, the Foundation started the “Instrument Loan Project” through which the Foundation has strived to make international contributions by loaning top-quality string instruments acquired by the Foundation.

The Foundation currently owns 21 string instruments (15 Stradivarius violins, 1 viola, 3 cellos, and 2 Guarneri del Gesù violins), and as the custodian of these world-class cultural treasures, maintains them for future generations and loans them free of charge to promising young musicians and internationally active musicians regardless of their nationality. Additionally, the Foundation organizes concerts in Japan and abroad featuring musicians who have received instrument loans, providing audiences the opportunities to experience the timbre of these exceptional instruments.

The Foundation’s activities are made possible by the generous support of The Nippon Foundation.

日本音楽財団 は、2025年12月15日をもちまして笹川音楽財団に名称変更いたしました。

As of December 15, 2025, the Nippon Music Foundation has officially changed its name to the Sasakawa Music Foundation.



smf Sasakawa
Music
Foundation

〒107-0052
東京都港区赤坂1丁目2番2号
Tel : 03-6229-5566
Fax : 03-6229-5570



表紙写真：ストラディヴァリウス 1722 年製ヴァイオリン「ジュピター」
裏表紙写真：ストラディヴァリウス 1735 年製ヴァイオリン「サマズィユ」